

氏名	大 本 志保子		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	博 乙 第 2262 号		
学位授与の日付	平成 3年 3月 28日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者(学位規則第5条第2項該当)		
学位論文題目	妊婦におけるビタミンKの意義に関する研究 —特にヘパプラスチンテストと血中ビタミンK濃度について—		
論文審査委員	教授 産賀敏彦	教授 佐伯清美	教授 清野佳紀

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

妊娠後期(妊娠34~36週)妊婦の血液凝固能をヘパプラスチンテスト(以下HPT)により評価し、これに関連する因子である血中ビタミンK(K_1 , MK-4, MK-7 濃度およびPIVKA-II (protein induced by vitamin K absence or antagonist) を測定した。その結果, 妊婦血漿 HPT 値は添付検量線からの%表示は困難で, 実測凝固時間表示が適当と考えられ, 19.14 ± 2.60 (mean \pm S.D.)秒であった。HPT異常値をmean+2 S.D.(24秒)以上に設定すると正常の凝固亢進を示さない異常値例を3.5%に認めた。この異常値例にケイツーカプセル(MK-4)を1日20mg投与したところ全例HPT値は正常化した。妊婦のビタミンK濃度は K_1 が 0.66 ± 0.41 ng/ml, MK-4が 0.18 ± 0.16 ng/ml, MK-7が 1.54 ± 2.12 ng/mlであった。HPT異常値例と正常値例で K_1 , MK-4, MK-7, PIVKA-II濃度との関連を検討した結果, MK-4のみがHPT異常値例で有意に低値であった。またPIVKA-IIとMK-4は負の相関を示した。

以上のことより, ビタミンKのうちMK-4が妊婦の血液凝固能と最も関連が深いことが明らかとなり, MK-4の経口投与の臨床的有用性が示唆され, 妊婦栄養指導上は多量のMK-4を含む鶏卵(卵黄), バターなどの乳製品摂取を推奨することが妊婦のビタミンK依存性凝固能の改善, ひいては乳児のビタミンK依存性出血症の予防に合目的と考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は妊婦におけるビタミンKに関する研究であるが, 妊娠後期における各種ビタミンK濃度と妊婦血液凝固能との関連および妊婦栄養指導に関して重要な知見を得た価値ある業績であると認める,

よって, 本研究者は, 医学博士の学位を得る資格があると認める。